

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 〈著書紹介〉

プラシャント・パルデシ, 桐生和幸, Hari  
DAMLE, Meena ASHIZAWA 編著

『日本語・マラーティー語基本動詞辞典』 (改訂版  
)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-03-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: パルデシ, プラシャント メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00000835">https://doi.org/10.15084/00000835</a>

ブラシャント・パルデシ, 桐生和幸,  
Hari DAMLE, Meena ASHIZAWA 編著  
『日本語・マラーティー語基本動詞辞典』(改訂版)  
2015年12月 Rajhans Prakashan  
A5判 xviii+539ページ 550インドルピー



ブラシャント・パルデシ

### 1. 本辞典編集の経緯

本辞典は財団法人博報児童教育振興会「ことばと文化・教育」研究助成の成果報告書『日本語・マラーティー語基本動詞用法辞典』として2007年4月に発行された。1年(2006年4月1日~2007年3月31日)という限られた時間ゆえに、日常的によく使われる基本動詞に的を絞ることとした。動詞に着目する理由は、動詞はことばを学んで話すための最小単位である文の中核を成すからである。基本動詞の選定に当たっては、プネー市(インド)で目下使われている日本語の教科書を3冊と日本語能力検定試験のガイドラインを参考にした。こうして、最終的に376語の動詞をリスト化したのだが、プネーの2年間の日本語教育で日本語学習者が学ぶべき動詞をすべて網羅している。辞書の編集作業に関しての詳細は、2007年度神戸大学留学生センター紀要をご覧ください。

この報告書版辞典(以下、初版)の見出し執筆作業の大部分はブラシャント・パルデシ、桐生和幸、鈴木幸平、秋田喜美、竹村亜紀子、大崎梓の各氏が担当し、日本におけるマラーティー語の研究者である石田英明氏、小磯千尋氏、戸渡博史氏らが草稿に目を通して貴重なコメントやアドバイスをくれた。500ページ近くに及ぶこの初版がわずか1年で完成したものの、時間的な制約とコンピューターでデーヴァナーガリー文字を処理することの煩雑さなどでこの初版は表記の誤りが多く、また一部のマラーティー語による語釈と説明の書き直しが必要であった。しかし、近年の言語処理技術の進歩により、コンピューター上でデーヴァナーガリー文字を素早く処理することが容易になった。また、ハリ・ダムレ氏、ミーナ・アシザワ氏が修正作業を一手に引き受けてくれた。修正は主に、(1)マラーティー語の誤植の修正、(2)現代マラーティー語の自然な言い回しによる語釈と説明の書き直し、(3)難しいと思われる漢字にふりがなをふること、であった。なお、初版では紙幅の関係で日本語の語釈は省略し、マラーティー語の翻訳のみを載せていた。今回の改訂版では日本語の語釈も加えた。ふりがなの付与は桐生和幸氏が開発したネット版のエディターを利用して行った。ネット上で利用できるエディターのお陰で日本とインドの両方から、またそれぞれの作業スケジュールを調整しながら、空間と時間の壁を乗り越え、効率的な作業が可能となった。また、このエディターの掲示板機能を利用して編集者同士の意見交換も可能となり、ミスを極力減らすと同時にマラーティー語を母語とする日本語学習者にこの辞典を最大限に役立ててもらおう工夫を施すことができた。



各意味には、日本語の例文とそのマラーティー語訳が付けてある。日本語の例文はすべての漢字の下にふりがながふってある。こうすることで、学習者が漢字に慣れ、読み方を覚えるのに役立つと考えるからである。ふりがな付きの日本語語釈の追加によって、マラーティー語を母語とする日本語学習者は日本語とマラーティー語の両言語で、また、マラーティー語ができない他の日本語学習者は日本語の語釈と例文を参照し、独習が可能となった。

作例において、日本の芸術、文化、スポーツなどに関する単語が使われているところがある。その場合は、当該の単語についてマラーティー語で簡潔な説明を加えている。このような工夫が意味理解を深めるために役立つと思われる。マラーティー語訳を付ける際、英語から借用され、現代マラーティー語でよく使う言葉（例：meeting, match）などはデーヴァナーガリー表記でそのまま使用した。また、英語の単語にマラーティー語の新しい訳語がある場合は両方載せることにした（例：flat, सदनिका）。これにより、マラーティー語の言い回しが理解できないことを避け、英語で教育を受けたマラーティー語話者にも理解できるようにした。

また、多くの見出し語に日本語とマラーティー語の対照的な観点から文法的な解説が付けてある。こういった解説は、10年以上にわたって我々が行ってきた日本語と南アジア諸語との対照研究の成果と言える。学習者がこういった説明を読むことで、二言語の間の文法的相違を理解するのに役に立つだろう。語彙や例文に関する対照情報がある場合は、❁の記号の後に提示している。以下、例文に関する対照情報に関して「奪う」からの例を示す。「奪う」では日本語の例文が受動文に対して、そのマラーティー語の対訳は能動文が自然で、受動文が不自然であることを述べ、この日本語とマラーティー語間の違いは「共感度・視点」の違いによるものであると説明している。

語法は文法やアスペクト、ヴォイスを中心にその動詞に関する情報を掲載してある。項目が2つ以上ある場合は、■が各項目の始まりであることを示している。右の例は「踏む」からである。

本辞典の最後に動詞に関する文法項目と

1: 坂田は夜の盛り場でチンピラにお金を奪われた。  
さかた よる さかば ちんぴら かね うば

रात्री गर्दीच्या ठिकाणी भुरट्या चोराने साकाताकडून पैसे हिसकावून नेले.

❁ या उदाहरणामधे वक्त्याला साकाता ही व्यक्ती परिचित आहे तर भुरटा चोर अपरिचित आहे. अशा वेळी जपानी भाषेमधे सहानुभूती (empathy) व्यक्त करण्यासाठी परिचित व्यक्तीला वाक्याचा कर्ता बनवावा लागतो. साकाता हा क्रियापदाने दर्शविलेल्या कृतीचा कर्ता नसून कर्म आहे. कर्माला वाक्याचा कर्ता बनविण्यासाठी जपानी भाषेमधे कर्मणी रचना वापरलेली आहे. मराठी भाषेमधे सहानुभूती दर्शविण्याची गरज जपानी भाषेइतकी निकडीची नसल्याने मराठी भाषांतरामधे भुरट्या चोराला कर्ता बनवून कर्तरी प्रयोग वापरलेला आहे.

### उपयोग

① ■「足を踏まれる」は被害の受身。「足が踏まれる」は直接受身で客観的な自分を叙述する。  
あし ふ ひかえ うけみ あし ふ  
 ■「踏んでいる」は反復動作または結果状態(踏んだ状態のままである)。  
あし ふ ほんぶくどうさ けつか じょうたい  
 ② ■「足を踏まれる」ही वाक्यरचना कर्त्यावर प्रतिकूल परिणाम झाला आहे असा अर्थ दर्शविणारी कर्मणी रचना आहे. 「足が踏まれる」ही वाक्यरचना वस्तुनिष्ठपणे परिस्थितिचे वर्णन करणारी प्रत्यक्ष कर्मणी रचना आहे. ■「踏んでいる」ही वाक्यरचना तुडविण्याची क्रिया ...

して、テンス、アスペクト、ヴォイス、授受表現、感情表現の動詞、敬語の解説を日本語とマラーティー語で載せてある。また、マラーティー語から日本語の動詞を参照で

**धडकणे**

あたる【当る / 当たる】(1).....47  
ぶつかる【ぶつかる】(1).....413

きるように逆引き索引を付けた。これにより、マラーティー語の1つの動詞や動詞句表現に対して異なる日本語が対応する場合を知ることができる。例えば、上の例のように、マラーティー語の「धडकणे」に対しては、日本語の「あたる」、「ぶつかる」という動詞が対応することがわかる。日本語の後にある(1)のような数字は、当該するマラーティー語の訳が当てられている動詞の意味番号である。...の後の数字は、ページ番号である。

索引も日本語からマラーティー語とマラーティー語から日本語の両方を用意している。この改訂版は文字通りの二言語辞典である。

### 3. まとめと展望

この辞典の内容は多義語の複数の意味とその使用例の理解だけでなく、漢字の学習や語彙の学習にも役立つように工夫されている。体系的、かつ、包括的に動詞の意味を理解することで、日本語会話を効率よく習得するのに役立つであろう。日本語能力試験の受験対策にも役立つと思われる。

印日協会会長のラメーシュ・ディヴェーカル氏はプネーと日本の交流の草分けである故D. D. ガンガル氏の協力のもと、1965年にPune Vidyarthi Grihaでプネー初の日本語教室を開いた。プネーにおける日本語教育の曙となるこの画期的な出来事からちょうど50年の佳節にこの辞典を刊行でき、プネー出身の日本語学習者である筆者にとって感慨もひとしおである。

#### ●参考文献●

パルデシ・プラシャント, 桐生和幸(2007)『『日本語—マラーティー語基本動詞用法辞典』作成プロジェクト: インドにおける日本語教育の基礎作りに向けて』『神戸大学留学生センター紀要』13: 87-102.

#### プラシャント・パルデシ (Prashant PARDESHI)

国立国語研究所言語対照研究系教授。博士(学術)(神戸大学)。神戸大学人文学研究科講師、国立国語研究所言語対照研究系准教授を経て、2011年4月より現職。

主な著書・論文:『有対動詞の通言語的研究—日本語と諸言語の対照から見えてくるもの—』(共編著, くろしお出版, 2015),『自動詞・他動詞の対照』(シリーズ言語対照〈外から見る日本語〉第4巻, 共編著, くろしお出版, 2010),『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ』(講座: 認知言語学のフロンティア 第5巻, 共著, 研究社, 2009), Toward a geotopology of EAT-expressions in languages of Asia: Visualizing areal patterns through WALS (『言語研究』130, 2006),『非意図的な出来事』の認知類型論: 言語理論と言語教育の融合を目指して』(共著, 『言語学と日本語教育IV』, くろしお出版, 2005).

受賞: 第1回「ことばと文化・教育」研究助成優秀賞(財団法人博報児童教育振興会, 2007), The Chatterjee-Ramanujan Prize for Outstanding Student Contribution to *The Yearbook of South Asian Languages and Linguistics* 2000 (Sage Publications).

社会活動: 日本語学会評議員.